

農・福・飲食連携 プロジェクト始動



麦ストロー作り挑戦

「豊田のバーテンダー吉田幸太郎さん発案」

世界で注目され始めたプラスチック製ストローの廃止問題を背景に、「豊田産の麦を使って、麦ストロー」を作ろう」と、豊田市内の飲食業界、福祉、農業を営む人たちが出発した取り組み「TH

ESTRAW PROJECT」が今月から本格的に動き始めた。それぞれの業種から環境にやさしい麦ストローを発信していく試みだ。

今枝雅加良さん(37)、桜町のデザイン事務所「WOSH」代表の和田力さん(31)の4人。協力福祉施設は市内で高齢者や障がい者の仕事創出

堤本町のトヨタファームの畑で、プロジェクト発案者の吉田さんは昨年、飲食業界で取り扱うストローの問題に直面。カクテルの素材に地元食材を使っていく縁で表農家とも繋がりを、自らも麦ストローづくりに挑戦。工程が単純なことを知った。数年前から弁護士の高澤幸祐さんより「障がいのある息子のために、食に関連する軽作業の仕事や事業をつくりたい」と相談も受けていたため、同プロジェクトを進めること

を決めた。メンバー揃って初めて活動した今月5日には、高齢者や障がい者を交えて16人で麦の種子まきを行った。太田裕彦市長も参加した。指導者の今枝

さんはまき方や生育について説明し、「障がいを持っていて人には、自分が何を作っているのかが目に見えることが大切ですよ」と話していた。高澤さん、高澤さんが支援されるだけの立場ではなく、環境にやさしい社会の役割の一助に携われるのがいいと思います」と微笑んでいた。収穫は5月中旬、下旬だという。

発案者の吉田さんは「豊田でつくられた麦ストローがさまざまな業界をつなげる架け橋となっただけで、新たな道が開けたら」と期待を募らせる。さらに「カクテルイベントで麦ストローを作った、その場で使うのもいいですね。健康者や障がい者の枠はなく、純粹にその場とカクテルを楽しむ空間ができたなら幸いですね」と夢を膨らませる。

【高澤幸祐】

「バー・リゼルヴァ」オーナーでバーテンダーの吉田幸太郎さん(43)、若宮町で法律事務所を開く弁護士の高澤幸祐さん(43)、手呂町で農福連携で自然農法を行っている

や開発などに取り組む西山町のNPO法人ほっとほーむよっといでん(坂元玲介代表)。高岡地区堤本町のトヨタファーム

まずは種子まき

来年5月に収穫

写真左から長澤幸祐さん、ほっとほーむよっといでんの栗本浩一さん、バー・リゼルヴァ吉田幸太郎さん(所要で欠席)の妻・理奈さん、今枝雅加良さん、和田力さん、堤本町トヨタファーム畑で

みくさ
学生のお店
011-0011